



# 災害・被ばく医療科学分野の人材育成による 知の交流拠点構築事業

長崎大学（共同申請：福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学）  
連携自治体：福島県川内村、富岡町、大熊町、双葉町

## 事業概要

長崎大学が復興推進拠点を設置している川内村、富岡町や大熊町において、福島県立医科大学や福島大学、東日本国際大学といった**福島県下の大学**、さらに**国際機関と連携して世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」**知の交流拠点を浜通りに構築する。

## 市町村との連携体制の構築および5年間の人材育成目標



1. 災害・被ばく医療科学分野の正しい知識を持った上で、**福島**の復興、発展を主導できる人材を育成する。
2. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、**国内**において本分野を担う人材に加えて、**グローバル**に本分野を担う人材を育成する。

## 今年度の活動内容と課題

1. **復興推進拠点活動報告会** (6/3)  
連携大学からの活動報告、および川内村、富岡町、大熊町、双葉町の各首長を交えた座談会を実施し、各町村の復興のあゆみ、今後の展望と大学への期待について意見交換が行われた。
2. **若手の自治体職員（大熊町・双葉町）を対象とした放射線の健康影響に関するセミナー** (8/5)  
放射線の基礎知識を学ぶことに加え、大学との共同事業につなげる。
3. **ウクライナ避難民学生対象「福島県復興視察研修」** (8/25～27)  
大規模複合災害からの復興に向けた人々の努力を知ること、学びを継続する意義や、祖国復興に向けた希望を育んでもらう。
4. **災害・被ばく医療科学、復興学集中セミナー** (9/11～15)  
若手医療従事者、学生を対象として国内人材の育成を目的とする。
5. **災害・被ばく医療科学、復興学国際セミナー** (11月開催予定)  
国際機関に所属する世界各国の研究者を招聘して意見交換を行い、国際的に活躍する人材を育成することを目的とする。
6. **原発立地自治体職員を対象とするセミナー** (1月開催予定)  
原子力災害からの地域復興における住民、行政、専門家や企業等との連携の重要性について学んでいただく予定。



## 3年目の事業内容及び取り組みの方向性

1. 川内村、富岡町、大熊町、双葉町の**復興推進拠点の充実**。特に大熊町については、教育委員会と連携しながら、リスクコミュニケーション活動を展開する。
2. 福島県内の大学との連携を通じた、川内村、富岡町における集中セミナーの開催。
3. 世界保健機関（WHO）や国際放射線防護委員会（ICRP）といった**国際機関と連携**して、災害・被ばく医療科学分野の若手研究者、専門家の国際的な人材の育成を進める。